



みつおずっと  
子育て支援  
町おこし  
町おこし

マチ モリ  
machi-mori  
有限責任事業組合



開く

開く





☆三丘子どもまちづくり塾☆



私たちは、この「三丘子どもまちづくり塾」に参加して、三丘の歴史ある場所や古くからある建物を知ることが出来ました。  
これからも「三丘子どもまちづくり塾」をとおして三丘のまちづくりをがんばって、三丘のことをもっとよく知りたいです。  
(編集 三丘小学校児童)



三丘で新たな試みがまた始まりました。三丘小学校の児童を対象とした「三丘子どもまちづくり塾」です。山口県ぶちええソーシャルビジネスコンテストで奨励賞を得て、今年3月に「みつおずっと子どもがいるまちプロジェクト」とタベルナタバタ?でおなじみの machi-mori 有限責任事業組合が協力して立ち上げました。16人の児童が参加し、熊毛北高校の6人の生徒がボランティアスタッフとして加わってくれました。

「三丘子どもまちづくり塾」では、児童が三丘のまちを学び、将来三丘のリーダーとして活躍するのに必要なリーダーシップを伸ばすための様々な研修を楽しみながら受けることができます。これまでに3回の研修が実施されました。初回は、地域のエキスパートの方や MOJO コンサルティングの長浜洋二先生を講師に迎え、三丘の地域資源を学び三丘の地図を作成しました。また、三丘ランキングを作成しました。二回目は、「三丘見て歩き」を片手に三丘のまちを探検し、スマホアプリ「まちクエスト」を使って三丘のまちクエストラリーを作成しました。そして、6月9日に行われた第三回目では、家族や友達も加わって8チームが三丘まちクエストラリー「三丘ディスカバリー」に挑戦しました。どのチームもすべてのクエスト(問題)を解き明かし、「子ども駄菓子屋」提供の駄菓子の詰め合わせを賞品にもらい、楽しい一日となりました。

「三丘子どもまちづくり塾」は通年行われ、これから秋に向けて、まちづくりのケーススタディや発表力を高めるためのプレゼンテーションスキル研修が予定されています。そのあとは、今年度のまちづくり塾の集大成として、決められたテーマに沿って参加児童それぞれが三丘のまちでやってみたい企画をたてるコンテストに取り組みます。どんなアイデアが出てくるのか、楽しみにしててください。なお、「三丘ディスカバリー」はスマホアプリ「まちクエスト」上でどなたでも、いつでも楽しむことができます。ぜひ児童の作ったまちクエストを使って三丘のまちを探検してください。(編集 三丘子どもまちづくり塾 鶴本 宏美)



みつおずっと  
子どもがいるまち  
プロジェクト



マチ モリ  
machi-mori  
有限責任事業組合



← 開く

開く →



## 「平成 30 年 7 月豪雨」から 1 年を迎えて

5 月 27 日(月)、三丘徳修館にて「平成 30 年 7 月豪雨」検証委員会(第 4 回目)を開催しました。過去の災害から学び、つぎの大規模災害に備えて最後の検証・話し合いを行いました。

第 4 回目 5.27(月)



検証委員会の様子

**要望書に対して、周南市から正式に回答を頂きました！**

検証委員会よりH30.9.20 付で提出した要望書について、周南市防災危機管理課課長及び補佐、熊毛総合支所長より、各要望項目に沿って、正式に回答を頂きました。災害対策本部の体制、避難情報伝達方法、避難所運営、災害ごみ処理方法、島田川等の河川改修等に対する周南市の検証・課題・対応を確認した上で、行政ならびに地域として今後の必要な対応等を話し合いました。

**支援金の使い道を協議・決定いたしました！**

「平成 30 年 7 月豪雨」にて 3 団体(久米地区コミュニティ推進協議会、ふるさと応援隊、徳山大学)より寄付頂いた支援金について、下記物品を避難物資として三丘地区各避難所分購入する予定といたしました。

- ・段ボールベッド
- ・簡易トイレ
- ・業務用扇風機
- ・アンテナ線 等

※それ以外の必要な物品については、自主防災協議会が補填予定。

## ～被災の記憶、写真に込めて～

「平成 30 年 7 月豪雨」から丸一年が経とうとしています。当時のようすを命がけで撮影された方達からご提供いただいた貴重な写真や動画について、**7 月 8 日(月)～13 日(土) 8:30～17:15(夜間は除く)の間、三丘徳修館 2F 大ホールにて展示いたします。**ぜひ、足を運んで鑑賞いただき、当時を振り返りながら、防災の意識を高めましょう。



## 「平成 30 年 7 月豪雨」写真展 開催

(7 月 8～13 日 三丘徳修館 2F 大ホール)



全 200 枚程。動画もあります。

～イメージ～

## 「三丘の将来」インタビュー (全 5 回予定)

昨今、少子高齢化、AI 技術の発展、自然災害の多発等、日本全体がめまぐるしい変化に見舞われており、三丘地域も例外ではなく、将来において取り組むべき問題がたくさんあります。

今回号から、全 5 回に分けて、各団体の長等に、お一人ずつ「三丘の将来」について、5 つの質問のもと、思いを語っていただきます。

第 1 回目は「平成 30 年 7 月豪雨」検証委員会 会長 榎山 隆 さんです。

Q1.三丘地域の好きな所や強みを教えてください。

大きな住宅地等がないため、より地域民の一体感が感じられる地域である。強みとして、“ほっと三丘”コミュニティ協議会主体の「みつおずっと子どもがいるまちプロジェクト」の成果により、移住者が増え、移住者の積極的な活動にあわせて、地域活動が活発になっている。そんな三丘地域にこれから住んでみたいと考える人が続々と出てきていることが嬉しい。



Q2.三丘地域の現在抱えている問題はどのようなものがあると思いますか？

やはり少子化が心配であり、「みつおずっと子どもがいるまちプロジェクト」の成果が上がるような取組をしっかりと継続していきたい。一方で高齢化が進んでおり、特に一人暮らしの世帯が増えていることが心配であり、地域を維持するためにも、今後の担い手である若者の定住が必要であると強く感じている。

そして、三丘地域には島田川があり、「平成 30 年 7 月豪雨」の経験から、水害の発生は常に考えておく必要があり、行政との連携は密にしておくことが重要であると考えている。

Q3.「平成 30 年 7 月豪雨」から丸一年が経ちますが、現在の心境は？

災害から一年が経つ中で、地域の中で時間の経過と共に災害意識が薄れているような気がしている。災害の教訓を忘れることなく、準備・対策を怠らないようにしっかりと意識をもつことが大切だと思う。

去年は水害であったが、今後、どんな災害が起こるか分からないのが今の日本であり、実際に起こったとき、いかに三丘地区が一つになって、災害に対応できるかが重要である。特に自主防災協議会が中心となって活動できるかどうか、三丘地区の災害対応の力ギになると思う。

Q4.今後の展望や目標を教えてください

少子化が進む中で、子どもたちの人数について、増えることが一番であるが、少なくとも、現在より減らさないようにしたい。そのためにも、「みつおずっと子どもがいるまちプロジェクト」の活動をより一層推進していきたい。また、地域全体として今後、様々な課題が出た際に、自治会連合会、“ほっと三丘”コミュニティ協議会、自主防災協議会、校外育成協議会等各団体が協力し合い、各々の立場を考えた上で、積極的に活動していくべきだと考える。

Q5.未来を担う次世代へ伝えたいことは？

「自分たちの地域は、自分たちで守り、考える」という意識をしっかりと持ってほしい。

地域の将来を考えるうえで、今後、若い世代の人たちが、行事やイベント等地域の活動へ積極的に参加できるような環境づくりが大切になるのではないかなと思う。ぜひ皆で力を合わせて、楽しくかつ真剣に取り組んでいきましょう。